



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

北海道支部

2022
春号

もっと伝えたい。北海道の赤十字のこと。

赤十字ほっかいどう

危機を前に、人は弱い。
でも、
危機を前に、人は強い。

災害や感染症の脅威が訪れた時。人は不安になる。恐怖に怯える。

けれど、人は励まし合い、前に進むことができる。

私たちは知っています。大切な人を守ろうとする姿を。災害に立ち向かおうとする人たちの強さを。

そんな思いに応えて、ともに乗り越えていくために。

災害の現場で、赤十字の医師・看護師・ボランティアが活動をつづけます。

——— 救いを託されている。あなたとともに。



5月は「赤十字運動月間」 おかげさまで創立135周年。これからも活動へのご理解とご支援を。

日本赤十字社北海道支部は道民の皆様を支えられ、1887年（明治20年）の創立から今年で135周年を迎えます。皆様の「誰かを救いたい」という思いとともに。これからも赤十字活動へのご理解とご支援をお願いします。

contents

特集 日赤北海道支部
135年のあゆみ
2~3

News & Topics 4~5

防災・減災ワンポイント講座
国際活動NEWS
歴史写真館 6

わが町の赤十字奉仕団
表彰者名簿 7

information 8



1896年 初の支部社屋が完成



1915年 支部仮病院



1934年 函館大火



1941年 戦時救護(第272救護班)



1948年 救急法講習



1948年 家庭看護法講習

日本赤十字社北海道支部は明治20年(1887年)に設立して以来、道民の皆様に支えられ、戦時や災害時の救護活動から無医地区への巡回診療、救急法などの各種講習普及、ボランティア育成、地域医療を支えるための医療事業など、人のいのちと健康、尊厳を守る活動に取り組んできました。

1887年 明治20年

日本赤十字社北海道委員会を設置 11月26日に事務所を北海道庁内に設置し、業務を開始。初代委員長は岩村通俊北海道庁長官。

1893年 明治26年

日本赤十字社北海道支部と改称 4月8日に札幌支部、5月2日に日本赤十字社北海道支部と改称。

1895年 明治28年

日清戦争で支部として最初の戦時救護

1896年 明治29年

初の支部社屋が完成 社屋を現住所の北1条西5丁目に新築し、移転。道内赤十字活動の拠点となる。

1897年 明治30年

看護師養成を開始 日本赤十字社北海道支部看護婦養成所を開設し、看護師養成を開始。

1898年 明治31年

支部最初の災害救護活動 石狩原野水害にて救護員を派遣し、北海道支部最初の災害救護を実施。

1915年 大正 4年

日本赤十字社北海道支部仮病院を開設 北海道支部仮病院として札幌市に開設。大正12年(1923)に日本赤十字社北海道支部病院として旭川市に移転。昭和18年(1943)に旭川赤十字病院と改称し、現在に至る。

1922年 大正11年

北海道移住者のための救護所を池田町・函館市に開設

1923年 大正12年

関東大震災での救護活動

1924年 大正13年

道内初の少年赤十字(現:青少年赤十字)が結成(厚真中央小学校)

1934年 昭和 9年

函館大火での救護活動

1935年 昭和10年

日本赤十字社北海道支部野付牛療院を開設 昭和18年(1943)に北見赤十字病院と改称し、現在に至る。

1939年 昭和14年

日本赤十字社北海道支部函館診療所を開設 昭和33年(1958)に函館赤十字病院と改称し、現在に至る。
日本赤十字社北海道支部浦河療院を開設 昭和23年(1948)に浦河赤十字病院と改称し、現在に至る。

1940年 昭和15年

日本赤十字社北海道支部伊達療院を開設 昭和19年(1944)に伊達赤十字病院と改称し、現在に至る。

1941年 昭和16年

日本赤十字社北海道支部野付牛病院小清水分院を開設 昭和36年(1961)に北見赤十字病院から独立、小清水赤十字病院と改称し、現在に至る。
太平洋戦争での戦時救護(～昭和20年)

1944年 昭和19年

伊達赤十字看護婦講習所を開設 昭和51年(1976)に伊達赤十字看護専門学校と改称し、現在に至る。
釧路赤十字病院を開設 明治37年(1904)開設の釧路博済病院が前身。陸軍病院として接收された時期を経て開設。

1946年 昭和21年

日本赤十字社北海道支部清水診療所を開設 昭和27年(1952)に清水赤十字病院と改称し、現在に至る。

1947年 昭和22年

北見赤十字病院置戸分院を開設 昭和29年(1954)に北見赤十字病院から独立し、置戸赤十字病院と改称、現在に至る。

1948年 昭和23年

救急法、家庭看護法(現:健康生活支援講習)講習を開始
道内初の奉仕団が結成(旭川市赤十字奉仕団)

1949年 昭和24年

水上安全法講習を開始

1951年 昭和26年

有珠優健学園の受託経営開始(～平成17年(2005)3月まで)

135 years.

これらの活動は皆様の活動資金によって支えられています。
これからも活動へのご理解とご支援をお願いします。



1952年 十勝沖地震



1954年 岩内大火



1964年 冷害被害地区での巡回診療



1993年 北海道南西沖地震



1995年 阪神淡路大震災



2000年 有珠山噴火



2004年 新潟県中越地震



2011年 東日本大震災

1952年 昭和27年

栗山赤十字病院を開設(当初は町立病院として開設。
昭和29年(1954)に北海道支部に移管され、現在に至る。)
十勝沖地震災害救護活動

1954年 昭和29年

岩内大火での救護活動

1959年 昭和34年

機関紙「赤十字北海道(現:赤十字ほっかいどう)」創刊

1961年 昭和36年

小樽保育所を開設

赤十字北海道創刊号▶

1962年 昭和37年

北海道立血液銀行を日本赤十字社に移管。昭和39年(1964)に北海道赤十字血液センターと改称し、現在に至る。

1964年 昭和39年

冷害被災者への救護活動

1968年 昭和43年

十勝沖地震災害救護活動

1970年 昭和45年

釧路さかえ保育園を開設

1979年 昭和54年

点字図書センターを開設

1980年 昭和55年

幼児家庭看護法(現:幼児安全法)講習開始

1987年 昭和62年

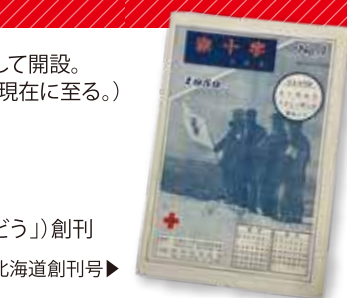
北海道支部創立100年記念大会を札幌市で開催

1990年 平成 2年

浦河赤十字看護専門学校を開設

1993年 平成 5年

北海道南西沖地震災害での救護活動
壊滅的な状態となった奥尻島を中心に
救護活動を3か月にわたり実施。



現在の釧路さかえ保育園



1987年 北海道支部創立100年記念大会

1995年 平成 7年

阪神淡路大震災での救護活動
道内から救護班6班、連絡調整員11名を派遣し、救護活動を実施。

1999年 平成11年

日本赤十字北海道看護大学が開学(運営:学校法人日本赤十字学園)

2000年 平成12年

有珠山噴火災害での救護活動 避難所への巡回診療など道内及び他ブロック救護班、
防災ボランティアが総力をあがって救護活動を実施。

2004年 平成16年

新潟県中越地震災害での支援活動 道内赤十字奉仕団と防災ボランティアが旧山古
志村内6か所の避難所に避難する村民2,000名に対し、2日間炊き出しを実施。

2009年 平成21年

新赤十字会館が現住所に完成

2011年 平成23年

東日本大震災での救護活動 救護班を道内の避難所に3班派遣したほか、被災地
の岩手県・福島県に39班、こころのケア要員35名を派遣。その他、救護班の後方支
援などのために多くの赤十字ボランティアが活動。

2018年 平成30年

胆振東部地震災害での救護活動 道内及び道外の救護班43班(延べ300名)、こ
ころのケア班29班(延べ90名)、救援物資の配布支援などのために赤十字ボラン
ティア702名が被災者のために活動を実施。

**2020年 令和 2年
～現在**

新型コロナウイルス感染症への対応 クルーズ船や障がい者支援施設で発生した
クラスターに対し、救援要員を派遣。各病院では感染患者の治療にあたるほかワ
クチン接種協力など感染拡大を防ぐ取組みを続ける。



2020年 クルーズ船における救護活動



2018年 胆振東部地震

道内8自治体に災害救援車「博愛号」を配備

令和3年度、日本赤十字社北海道支部では、災害発生時に迅速な救護活動を展開するために災害救援車両を道内8か所の自治体に配備しました。

災害救援車「博愛号」と名づけられたこの車両は、災害発生時に救援物資の運搬や避難所間の情報伝達等に使用され、胆振東部地震でも活躍しました。

昭和61年度(1986年)から配備を続け、今回で累計410台となりますが、平成9年(1997年)より、よつ葉乳業株式会社様のご支援もいただいております。

同社はこれまでの大規模災害の経験から災害対策強化の必要性を重く受け止め、1997年の創立30周年記念事業で「博愛号」8台を道支部に寄贈し、以降、毎年1台の寄贈を続けていただいております。

2月7日(月)には林田裕之 取締役執行役員管理統括部長が道支部を訪問し、ゴールドキーを渡辺事務局長に手渡されました。

令和3年度配備自治体

美唄市、京極町、倶知安町、今金町、中富良野町、礼文町、豊頃町(よつ葉乳業㈱寄贈先)、白糠町



災害救援車「博愛号」



ゴールドキーを手渡すよつ葉乳業㈱
林田裕之取締役執行役員管理統括部長(左)

令和3年度赤十字災害救護訓練を実施



オンラインで実施された災害救護訓練

3月9日(水)、道内10か所の赤十字病院、日本赤十字北海道看護大学、道支部からスタッフを含め計38名が参加し、令和3年度赤十字災害救護訓練をオンライン形式で実施しました。

今回の訓練は、避難所でのゾーニングに関する講義や限られた資機材で感染症対策を講じた避難所の設営をどのように行うかを考える事前課題の発表など、感染症対策に重点を置いた内容となりました。

また、道保健福祉部地域医療課の森田裕規主査(災害医療)より「北海道から見た赤十字」と題し、ご講演いただきました。

奉仕団啓発グッズ

「アンリーリフレクター」

日本赤十字社北海道支部では、赤十字奉仕団活動の充実・活性化を図るため、マスコットキャラクター「アンリー」を使った「アンリーリフレクター(携帯用反射板)」を奉仕団に提供しています。

奉仕団は自団のPRを盛り込むなどの特色あるアレンジを加え、地域イベントでの配布や青少年赤十字との協働活動、さらには社資募集活動など幅広く活用しています。

令和3年度に作製されたアンリーリフレクター(一例)



札幌市水上安全赤十字奉仕団(左)
美瑛町赤十字奉仕団(右)

JRCカレンダープロジェクト from HOKKAIDO

～未来のあなたに、やさしさを～

新型コロナウイルス感染症の影響により青少年赤十字活動が制約される中、日本赤十字社北海道支部では、新たな取り組みとして、離れていてもJRCメンバー同士が繋がれるよう、「未来のあなたに、やさしさを」をテーマとして、道内青少年赤十字加盟校から募集した作品を一つにまとめたカレンダーを作成しました。

カレンダーの表紙と、応募いただいた作品の一部をご紹介します。

「未来のあなたに、やさしさを」をテーマに作成されたカレンダー



青少年赤十字スタディー・プログラム

～日本全国の青少年赤十字メンバーが集結～

令和2年12月25日(土)・26日(日)、全国の中・高校生青少年赤十字メンバーがオンラインで繋がり、リーダーシップや人道、環境問題などについて学ぶ「青少年赤十字スタディー・プログラム」が開催され、全国から308人が参加し、北海道からは札幌山の手高校、北海道大野農業高校の生徒が参加しました。

例年、日本赤十字社では青少年赤十字活動の中心となるリーダーを養成する研修として宿泊型の研修「スタディー・センター」を実施していますが、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、オンライン形式の「スタディー・プログラム」として開催しています。

参加した生徒の皆さんはリーダーシップやSDGsに関する講義を受けたり、防災や国際親善に関するディスカッションを進んで行ったりと、とても真剣に取り組んでいました。また、令和4年に青少年赤十字が創設100周年を迎えることからSNSを使ったキャンペーンについて考える時間もありました。



協力しながら取り組む生徒の皆さん



全国のJRCメンバーと交流ができました



札幌山の手高校の皆さん

看護専門学校・看護大学で卒業式



卒業証書を受け取る卒業生(伊達赤十字看護専門学校)

3月4日(金)に伊達、浦河赤十字看護専門学校、3月9日(水)に日本赤十字北海道看護大学(北見市)で卒業式が行われ、合わせて131名(令和3年度)が学び舎を巣立ちました。

看護専門学校の卒業式では、新型コロナウイルス感染防止の措置を行ったうえで日本赤十字社の伝統の救護員制服に身を包んだ学生たちが卒業証書を受け取り、大変だった実習など仲間と支えあった3年間を振り返りました。

卒業生は道内赤十字病院をはじめ、医療機関等で社会人としての一步を踏み出します。

防 災・減災

ワンポイント講座

～コロナ禍での避難所生活～

いつ起こるかわからない大災害。今回はコロナ禍で避難所生活をおくる必要があるときに気をつけることや必要なものを確認してみましょう。

！ 避難所の変化

感染症が流行している時は、普段の避難先の選び方と異なるポイントがあります。

- 出来るだけ、少人数・個別空間を確保できる避難先を選ぶ
- 「分散避難」を心がける

！ 避難所生活で個人が気をつけること

災害だけでなく、感染症対策にも気をつける必要があります。

- 3密を避ける
- 手洗い、アルコール消毒の徹底
- 無意識に目、鼻、口を触らない
- マスクを着用し咳エチケットを守る
- 食器やタオル等を他人と共有しない
- 床付近での感染リスクも認識する

！ 避難所に持っていくもの

感染症を考慮すると、これまで準備していた非常時の持出し品だけでは足りない場合があります。既にある備えに以下のものも加えるとよいでしょう。



国際活動 NEWS

ウクライナ人道危機における赤十字の対応

2月下旬からウクライナにおける戦闘が激化し、緊迫した状況が続いています。

国際赤十字では一丸となってこの危機に対応し、ウクライナ内外で救援物資の配付、応急手当の研修、医療施設での医薬品や機器の支援等を実施し、すべての紛争当事者に対して国際人道法の遵守、一般市民の保護、人道支援のアクセスの確保を強く訴えています。また、日本赤十字社は緊急救援活動を支援するため2,000万円の資金援助を決定しました。

なお、日本赤十字社では、国際赤十字・赤新月社連盟、赤十字国際委員会および各国赤十字・赤新月社が実施するウクライナでの人道危機対応及び避難民を受け入れる周辺国とその他の国々における救援活動を支援するため、海外救援金を募集しております。

詳しくは日本赤十字社北海道支部ホームページをご覧ください。



ウクライナから避難してきた人々に国境沿いで食料や衛生物資等を配付するボランティア(C)ルーマニア赤十字社

赤十字ほっかいどう 歴史写真館



北海道庁旧本庁舎前の イチイの木



北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)の正面前庭にはひととき目立つイチイの木がそびえています。

この木は、日本赤十字社北海道支部旧社屋の玄関前に植えられていたもので、1958年(昭和33年)に社屋を改築した際に現在地に移植されました。

以来、北海道での赤十字の歩みを見守り続けています。

わが町の 赤十字 奉仕団

地域に根ざしたさまざまな活動を行う北海道の赤十字奉仕団。その中からいくつかの奉仕団の取組みを毎号紹介しています。

上富良野町赤十字奉仕団

上富良野町赤十字奉仕団は、昭和57年11月に結団し、今年で創立40周年を迎えます。

同志32名により創立され、現在は158名の団員により活動しております。主な活動としては、高齢者施設への奉仕活動・赤い羽根共同募金・義援金募集・町のイベントのお手伝い等をさせて頂いております。

高齢者施設への奉仕活動では、例年、清拭縫いや車椅子の清掃・芸能ボランティア等を行っておりますが、令和2年度と3年度は、コロナ禍の中で施設内での活動が出来なかったため、清拭縫いは、各家庭で縫ってもらったり、人数制限などの感染対策をして作業を行い、616枚の清拭をラベンダーハイツへ届けました。また、クリスマス会には、芸能ボランティアの代わりに、サンタクロースの折り紙を添えてティッシュペーパーをプレゼントさせて頂きました。



炊き出し訓練



地域の福祉施設へプレゼント

町のイベントなどもほとんどが中止になり、毎年参加している社会福祉協議会主催の「ふれあい広場」での炊き出し訓練もできませんでした。

しかしながら、近年、自然災害が多く発生していることや、わが町上富良野町も活火山十勝岳をひかえる町として、常に防災意識を持っていないといけないことから、緊急事態宣言解除後、役員と地区委員の少人数で訓練を実施しました。一人暮らしの高齢者やふれあい昼食に係る社会福祉協議会の職員にパンフレットとともにハイゼックス食を配布することにより、安全思想の普及を図ることが出来ました。

今後も、明るい社会を目指し、住みよい町づくりに赤十字奉仕団一丸となって取り組んでまいりたいと思います。

委員長 村上 孝子

たくさんのご協力ありがとうございました

活動資金にご協力いただき、表彰された方々をご紹介します。(敬称略) 令和3年11月～令和4年2月表彰伝達分

金色有功賞

札幌市 中村 美樹子
釧路市 宮脇土建株式会社
新ひだか町 株式会社なかむら
支部 株式会社流研

銀色有功賞

江別市 おかざき眼科
新十津川町 西野 末広
支部 有限会社エス・アイ・エル
システムサポート
草沁工業株式会社
株式会社ワールド航空
サービス

社長感謝状

鷹栖町 西野 耕一郎
株式会社ツルハホールディングス
支部 よつ葉乳業株式会社
株式会社北海道建築総合研究所
北土建設株式会社

救急法等認定証の有効期間について

令和2年3月から、認定証を交付する救急法の救急員、水上安全法と雪上安全法の救助員、健康生活支援講習と幼児安全法の支援員を養成する講習を中止しております。

令和3年4月1日から令和5年3月31日の間に現在お持ちの資格が満了となる方は、

令和6年3月31日までは、満了後も資格は有効とみなします。

なお、お持ちの資格の養成講習再開後は速やかに当該講習の受講をお願いいたします。

令和3年度第2回評議員会 文書審議結果

令和3年度第2回評議員会は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、文書により下記の議案が審議され、原案どおり承認されました。

令和4年度も赤十字活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

- 第1号議案 監査委員の任期満了に伴う候補者の選出について
- 第2号議案 本社代議員の任期満了に伴う候補者の選出について
- 第3号議案 令和4年度事業計画(案)について
- 第4号議案 令和4年度各会計歳入歳出予算(案)について
 - ・一般会計歳入歳出予算
 - ・社会福祉施設特別会計歳入歳出予算
 - ・医療施設特別会計歳入歳出予算
 - ・血液事業(報告)

赤十字ゆかりの地ガイドブック プレゼント!

全国各地の赤十字にゆかりのある場所を旅行ガイドブック風に紹介。この本で赤十字ゆかりの地を巡ってみるのはいかがでしょうか。

抽選で
**10名様に
プレゼント**



応募方法

①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④年齢 ⑤メールアドレス ⑥本誌入手場所 ⑦本誌へのご意見・ご感想を明記し、日本赤十字社北海道支部「赤十字ほっかいどう」担当あてに下記の方法でご応募ください。

メール ▶ jrchanri@hokkaido.jrc.or.jp (件名「赤十字ほっかいどうプレゼント応募」)
はがき ▶ 〒060-0001 札幌市中央区北1条西5丁目
FAX ▶ 011-231-7128

応募締切

令和4年(2022年)5月末日

・当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。・いただいた個人情報はプレゼントの発送及び当支部からの連絡のみに使用します。・お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部の広報活動に活用させていただく場合があります。

「救いたい」 という思いを次世代へ

あなたの思いを赤十字に託す、
未来を赤十字に繋ぐ

～遺贈・相続財産からのご寄付について～

日本赤十字社北海道支部は近年頻発する自然災害や新型コロナウイルス感染症への対応など、北海道をはじめ国内外で130年以上にわたり人道支援活動を行っています。

お問い合わせ

遺贈・相続財産寄付担当 TEL.011-231-7126
(平日9:00~17:30)

日本赤十字社北海道支部への遺贈・相続財産寄付にご理解ください。ご希望の方にはパンフレットをお送りします



発行元

日本赤十字社 北海道支部
Japanese Red Cross Society

札幌市中央区北1条西5丁目 TEL:011-231-7126

発行日 令和4年4月13日

公式facebook・Instagramで情報発信中!



日赤北海道



<https://www.jrc.or.jp/chapter/hokkaido/>



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、より多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字を採用しています。